

愛称：あんしんスイッチ

SMB C・アムンディ プロテクト&スイッチファンド

追加型投信／内外／資産複合

第1期

(決算日 2018年7月11日)

作成対象期間 (2017年7月28日～2018年7月11日)

| 第1期末 (2018年7月11日) | |
|-------------------|---------|
| 基準価額 | 9,914円 |
| 純資産総額 | 2,334億円 |
| 第1期 | |
| 騰落率 | △0.9% |
| 分配金(税込み) | 0円 |

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

●受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。

当ファンドはこの度、上記の決算を行いました。

当ファンドは、世界の株式、債券、不動産投資信託証券(各証券に関連する上場投資信託証券含む)および短期金融資産など、さまざまな資産へ投資し、資産配分を機動的に変更することにより、基準価額がプロテクトラインを上回るように運用しつつ、安定した収益の確保と投資信託財産の中長期的な成長を図ることを目的として運用を行います。プロテクトラインは、基準価額の水準に応じて上昇します(設定時は9,000円)。一旦上昇したプロテクトラインは下がりません。基準価額がプロテクトラインまで下落した場合は、円建の短期金融資産等を中心とした安定運用に切り替えを行い、繰上償還します。基準価額がプロテクトラインを下回らないように、投資信託財産のための契約(保証契約)をクレディ・アグリコル・エス・エー(保証銀行)と締結します。保証契約により基準価額はプロテクトラインを下回ることなく繰上償還します。組入外貨建資産については、機動的に為替ヘッジを行います。また、アムンディ アセットマネジメントに運用の指図に関する権限を委託します。

当作成対象期間につきましてもそれに沿った運用を行いました。

ここに運用状況についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますよう、よろしく申し上げます。

- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。

【閲覧方法】

右記<お問い合わせ先>に記載されているホームページアドレスにアクセス⇒「ファンド情報」メニューから「ファンド・基準価額一覧」(当ファンドが償還した場合は「償還ファンド一覧」)をクリック⇒当該一覧から当ファンドのファンド名称をクリック⇒運用報告書(全体版)をクリック

※ホームページ掲載日より5年間は閲覧いただけます。

- 運用報告書(全体版)は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

アムンディ・ジャパン株式会社

〒100-0011 東京都千代田区内幸町1丁目2番2号

<お問い合わせ先>

お客様サポートライン 0120-202-900 (フリーダイヤル)

受付は委託会社の営業日の午前9時から午後5時まで

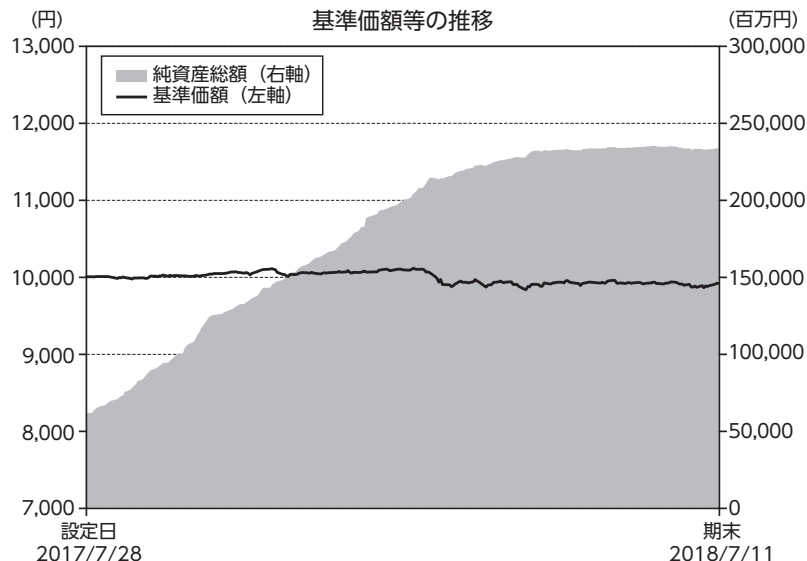
ホームページアドレス：<https://www.amundi.co.jp/>

運用経過

基準価額等の推移

| | |
|----------------|---------|
| 設定日 | 10,000円 |
| 第1期末 | 9,914円 |
| 既払分配金 (税込み) | 0円 |
| 騰落率 | △0.9% |

当ファンドは運用成果の目標基準となるベンチマークを設けておりません。また、当ファンドと適切に対比できる参考指数はありません。



基準価額の主な変動要因

下落要因

- ①2017年9月から2018年5月にかけて、米国国債が下落（金利は上昇）したこと
- ②2018年2月から2018年3月にかけて、株式市場が下落したこと
- ③2018年2月から2018年6月にかけて、欧米の社債や新興国債券が下落したこと
- ④運用管理費用（信託報酬）等の費用

上昇要因

- ①2017年9月から2018年1月にかけて、米国を中心に株式市場が上昇したこと
- ②2018年3月から2018年5月にかけて、欧州を中心に株式市場が上昇したこと

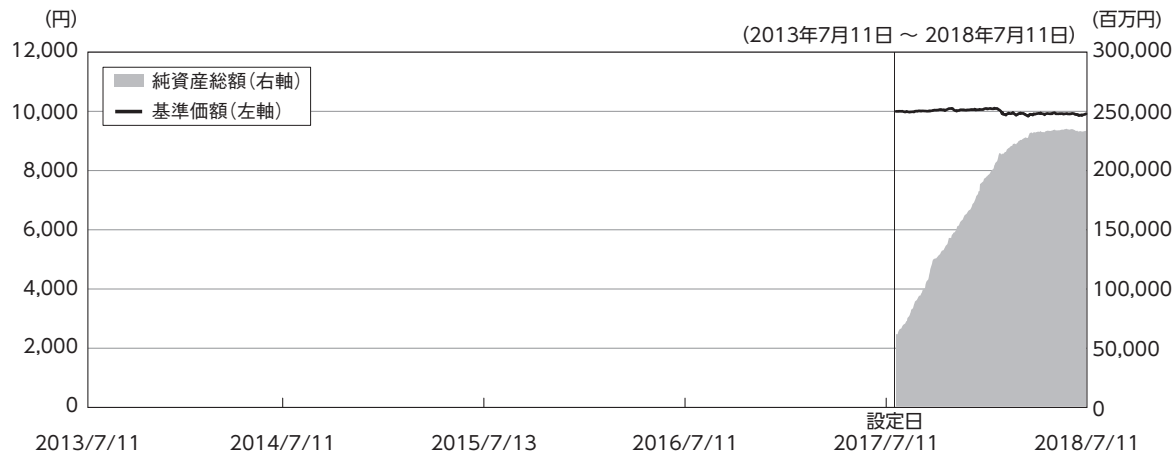
1万口当たりの費用明細

| 項 目 | 第 1 期 (2017年7月28日 ～2018年7月11日) | | 項 目 の 概 要 |
|---|--|--|---|
| | 金額 | 比率 | |
| (a)信 託 報 酬 (投 信 会 社) (販 売 会 社) (受 託 会 社) | 116円 (46) (67) (3) | 1.167% (0.465) (0.671) (0.031) | 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 交付運用報告書等各种書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の 情報提供等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価 |
| (b)売買委託手数料 (投資信託証券) (先物・オプション) | 3 (3) (1) | 0.033 (0.026) (0.006) | 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料 |
| (c)有価証券取引税 (投資信託証券) | 0 (0) | 0.000 (0.000) | 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金 |
| (d)そ の 他 費 用 (保 管 費 用) (監 査 費 用) (印 刷 費 用) (保 証 料) (そ の 他) | 23 (1) (0) (0) (21) (1) | 0.233 (0.008) (0.002) (0.002) (0.212) (0.009) | その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産 の移転等に要する費用 監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 ファンドの法定開示資料の印刷に係る費用 保証契約に係る費用 信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用等 |
| 合 計 | 142 | 1.433 | |

期中の平均基準価額は9,981円です。

- (注1) 費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
(注2) 消費税は報告日の税率を採用しています。
(注3) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
(注4) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。
(注5) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

最近5年間の基準価額等の推移



※運用実績が5年未満でも横軸は5年間表示しております。

最近5年間の年間騰落率

| | — | — | — | — | 2017/7/28 設定日 | 2018/7/11 決算日 |
|-------------------|---|---|---|---|------------------|------------------|
| 基準価額 (円) | — | — | — | — | 10,000 | 9,914 |
| 期間分配金合計 (税込み) (円) | — | — | — | — | — | 0 |
| 基準価額騰落率 (%) | — | — | — | — | — | -0.9※ |
| 純資産総額 (百万円) | — | — | — | — | 61,317 | 233,483 |

※ 設定日から2018年7月11日までの騰落率です。

(注) 運用成果の目標基準となるベンチマークおよび運用方針に対し適切に比較できる参考指数はありません。

投資環境

<世界の株式市場>

世界の株式市場は当ファンド設定直後は軟調に推移し、9月末にリスク回避の動きが弱まるにつれ、円安や総選挙などを背景に日本株が上昇を先導しました。2018年1月にかけては、世界の株式市場は先進国、新興国全般にわたって、世界経済の同時拡大を背景に上昇しました。しかし2月には米国の金利上昇を契機に株式市場は下落に転じ、地政学的リスクの高まりやハイテク株の不調を受けて3月まで軟調に推移しました。期末にかけては、堅調な企業業績にもかかわらず、地政学的リスクや米国の貿易政策により、地域によりまちまちな動きを示しました。

<世界の債券市場>

良好な経済情勢と景気指標に沿って行われるFRB（米連邦準備理事会）の利上げを背景に、米国の金利は一般的に上昇（米国国債価格は下落）傾向を示しました。欧州では、好調な欧州経済やECB（欧州中央銀行）のタカ派姿勢などを背景に2017年12月から2018年2月にかけて金利は上昇しました。その後、米中貿易戦争への懸念から金利は低下に転じ、特に、イタリアの政治的不透明感が増した5月には大きく低下しました。社債は米国の金利上昇傾向や米中貿易戦争への懸念を受け、軟調な展開となりました。

<為替市場>

当期は、米ドル/円相場やユーロ/円相場は、米・日・欧州の中央銀行の金融政策に対する思惑や地政学的リスク、米国の保護主義・米中の貿易戦争への懸念などで上下しましたが、おおむね横ばいで期末を迎えました。期前半は、米・欧の引き締め方向の金融政策や、米税制改正の前進などから円安傾向となりました。2018年2月から3月にかけては、米中貿易摩擦の懸念の和らぎやアジアの地政学的リスク後退などから円安が目立ちました。

ポートフォリオ

当期は、プロテクトラインを意識し分散を重視した慎重な運用スタンスで投資を行いました。2017年末から2018年1月にかけて、欧州の金利上昇リスクを抑えたポジションとしました。2月に株式市場が下落したことを受けて、この機会を活用し、株式を買い増しました。その後、ボラティリティ（価格変動性）の大幅な上昇を背景に、リスク資産のポジションを縮小し、ポートフォリオのリスクを抑えました。

上述のような投資行動の結果、当期のリターンは-0.9%となりました。2017年9月から2018年5月にかけて米国の金利が上昇する環境で、社債や新興国ソブリン債も売られたことや運用管理費用（信託報酬）等の費用がマイナス要因となりました。しかし、株式は、大きく下落した局面はあったものの、米国を中心に上昇したためプラス要因となりました。

(アムンディ アセットマネジメント)

ベンチマークとの差異

当ファンドは運用成果の目標基準となるベンチマークを設けておりません。また、当ファンドと適切に対比できる参考指数はありません。

分配金

収益分配金につきましては、基準価額水準および市況動向等を勘案した結果、見送りとさせていただきます。なお、収益分配に充てず、信託財産内に留保した収益については、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

分配原資の内訳

(単位：円・1万口当たり・税込み)

| 項 目 | 第 1 期 |
|-----------|-----------------------------|
| | (2017年7月28日 ～2018年7月11日) |
| 当期分配金 | － |
| (対基準価額比率) | (－%) |
| 当期の収益 | － |
| 当期の収益以外 | － |
| 翌期繰越分配対象額 | 1 |

- ・「対基準価額比率」は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なる点にご留意ください。
- ・「当期の収益」「当期の収益以外」は小数点以下切捨てで算出しているため、合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

今後の運用方針

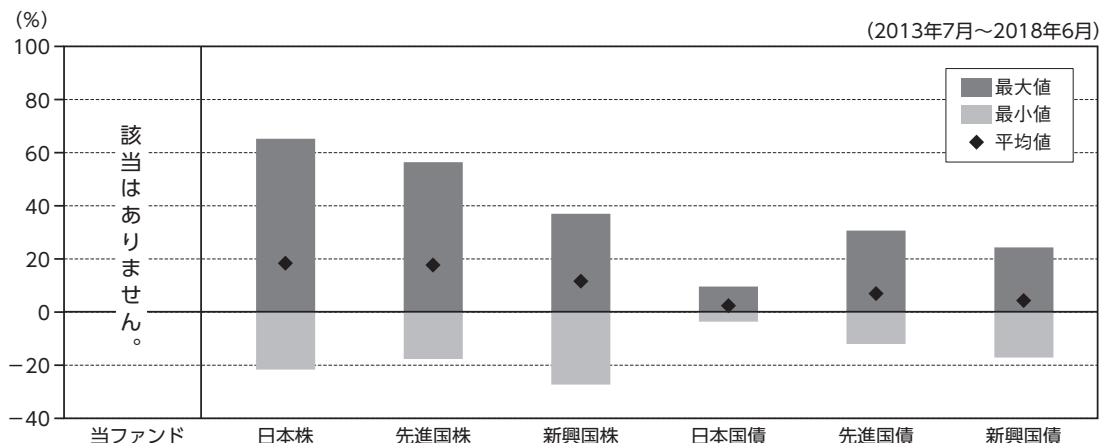
当ファンドは中長期的に、リスク資産に関する強気な見方を維持しています。ただし、貿易をめぐる議論が市場に深刻な影響を及ぼす恐れがあり、足元の市場環境は今後数ヵ月間、変動が激しくなる可能性があると考えています。特に、米国とその貿易相手国との貿易摩擦の行方、イタリアなどの地政学的リスク、金利動向、米国や中国の景気動向などに注目しています。引き続き、プロテクトラインを注視するとともに、リスクを適切な水準に維持しバランスのとれた資産配分とする、慎重な姿勢を継続する方針です。

(アムンディ アセットマネジメント)

ファンドの概要

| | | |
|--------|--|---|
| 商品分類 | 追加型投信／内外／資産複合 | |
| 信託期間 | 2017年7月28日から2033年7月11日までです。 | |
| 運用方針 | 世界の株式、債券、不動産投資信託証券（各証券に関連する上場投資信託証券含む）および短期金融資産など、さまざまな資産へ投資し、資産配分を機動的に変更することにより、基準価額がプロテクトラインを上回るように運用しつつ、安定した収益の確保と投資信託財産の中長期的な成長を図ることを目的として運用を行います。プロテクトラインは、基準価額の水準に応じて上昇します（設定時は9,000円）。一旦上昇したプロテクトラインは下がりにません。基準価額がプロテクトラインまで下落した場合は、円建の短期金融資産等を中心とした安定運用に切り替えを行い、繰上償還します。基準価額がプロテクトラインを下回らないように、投資信託財産のための契約（保証契約）をクレディ・アグリコル・エス・エー（保証銀行）と締結します。保証契約により基準価額はプロテクトラインを下回ることなく繰上償還します。組入外貨建資産については、機動的に為替ヘッジを行います。また、アムンディ アセットマネジメントに運用の指図に関する権限を委託します。 | |
| 主要投資対象 | SMBC・アムンディプロテクト&スイッチファンド | 世界の株式、債券、不動産投資信託証券（各証券に関連する上場投資信託証券含む）および短期金融資産など |
| 運用方法 | <p>①世界の株式、債券、不動産投資信託証券（各証券に関連する上場投資信託証券含む）および短期金融資産など、さまざまな資産へ投資し、資産配分を機動的に変更することにより、基準価額がプロテクトラインを上回るように運用しつつ、安定した収益の確保と投資信託財産の中長期的な成長を図ることを目的として運用を行います。</p> <p>②プロテクトラインは、基準価額の水準に応じて上昇します（設定時は9,000円）。一旦上昇したプロテクトラインは下がりにません。</p> <p>③基準価額がプロテクトラインまで下落した場合は、円建の短期金融資産等を中心とした安定運用に切り替えを行い、繰上償還します。基準価額がプロテクトラインを下回らないように、投資信託財産のための契約（保証契約）をクレディ・アグリコル・エス・エー（保証銀行）と締結します。保証契約により基準価額はプロテクトラインを下回ることなく繰上償還します。</p> <p>④組入外貨建資産については、機動的に為替ヘッジを行います。</p> <p>⑤アムンディ アセットマネジメントに運用の指図に関する権限を委託します。</p> | |
| 分配方針 | 毎決算時（年1回決算、原則として毎年7月11日。ただし、休業日の場合は翌営業日）に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。分配金額は、委託者が基準価額水準および市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。 | |

当ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較



当ファンドと他の代表的な資産クラスの平均騰落率、年間最大騰落率及び最小騰落率 (%)

| | 当ファンド | 日本株 | 先進国株 | 新興国株 | 日本国債 | 先進国国債 | 新興国国債 |
|-----|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|
| 平均値 | — | 18.1 | 17.5 | 11.3 | 2.2 | 6.7 | 4.0 |
| 最大値 | — | 65.0 | 56.2 | 36.7 | 9.3 | 30.4 | 24.1 |
| 最小値 | — | -22.0 | -18.0 | -27.7 | -4.0 | -12.3 | -17.4 |

(注) 当ファンドの年間騰落率はありません。他の代表的な資産クラスについては、2013年7月から2018年6月の5年間の各月末における直近1年間騰落率の平均値・最大値・最小値を表示したものです。

各資産クラスの指数

- 日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)
- 先進国株：MSCIコクサイ・インデックス (税引後配当込み、円ベース)
- 新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス (税引後配当込み、円ベース)
- 日本国債：NOMURA-BPI国債
- 先進国国債：FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)
- 新興国国債：JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド (円ベース)

※詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しております。

- ・全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
- ・騰落率は直近月末から遡って算出した結果であり、当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

ファンドのデータ

当ファンドの組入資産の内容

組入上位10銘柄

2018年7月11日現在

(組入銘柄数:17銘柄)

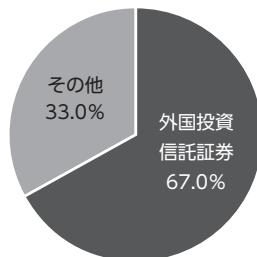
| | 銘柄 | 通貨 | 比率 |
|----|------------------------------|-----|------|
| 1 | AMUNDI S&P 500 UCITS ETF | 米ドル | 9.1% |
| 2 | AMUNDI GOVT BOND LOWEST | ユーロ | 6.7% |
| 3 | AMUNDI US CORP SRI UCITS ETF | 米ドル | 6.6% |
| 4 | ISHARES USD TREASURY 7-10YR | 米ドル | 6.0% |
| 5 | AMUNDI EURO CORPORATES-C | ユーロ | 5.5% |
| 6 | VANGUARD INT-TERM CORPORATE | 米ドル | 5.4% |
| 7 | AMUNDI BBB EUR CORP INV GR | ユーロ | 5.1% |
| 8 | AMUNDI ABS IC | ユーロ | 4.7% |
| 9 | AMUNDI ETF US TREASURY 7-10 | 米ドル | 3.5% |
| 10 | AMUNDI EUR HY LIQ BD IBOXX | ユーロ | 3.3% |

(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

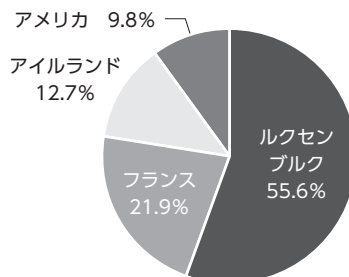
(注2) 全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)に記載されております。

種別構成

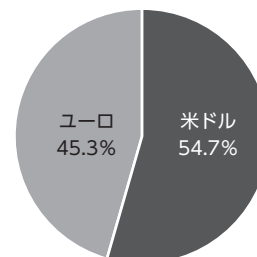
資産別配分



国別配分



通貨別配分



(注1) 資産別配分の比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 国別配分および通貨別配分の比率は、ポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。

(注3) 比率は、小数点以下第2位を四捨五入しております。

純資産等

| 項目 | 第1期末 2018年7月11日 |
|------------|--------------------|
| 純資産総額 | 233,483,090,628円 |
| 受益権総口数 | 235,503,336,573口 |
| 1万円当たり基準価額 | 9,914円 |

※当期間(第1期)中における追加設定元本額は190,397,899,147円、同解約元本額は16,212,441,132円です。

指数に関して

◇「代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

• 東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）とは、東京証券取引所第一部に上場している全銘柄を対象として算出した指数で、TOPIXの指数値およびTOPIXの商標は東京証券取引所の知的財産であり、同指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利およびTOPIXの商標に関するすべての権利は、東京証券取引所が有します。東京証券取引所は、TOPIXの指数値の算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの指数値の算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有します。

• MSCIコクサイ・インデックス（税引後配当込み、円ベース）

MSCIコクサイ・インデックスとは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有します。

• MSCIエマージング・マーケット・インデックス（税引後配当込み、円ベース）

MSCIエマージング・マーケット・インデックスとは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有します。

• NOMURA-BPI国債

NOMURA-BPI国債とは、野村證券株式会社が公表する、国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数です。同指数の知的財産権とその他一切の権利は野村證券株式会社に帰属します。

• FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）とは、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

• JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド（円ベース）

JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイドとは、J.P.Morgan Securities LLCが算出し公表している、現地通貨建のエマージング・マーケット債で構成されている指数です。同指数の著作権はJ.P.Morgan Securities LLCに帰属します。

Amundi
ASSET MANAGEMENT
アムンディ アセットマネジメント